

目的 近年、ソフトからハイサポートにいたる各種パンティストッキングが販売され、整容効果、血行促進などの効用が宣伝されている。しかし、その人体への生理的影響を実証した研究は少なく、消費科学的観点からの問題を提起している。そこで本研究では、これらの市販パンティストッキング着衣時の、衣服圧、整容効果を測定すると共に、皮膚表在血流量および趾先血流量におよぼすストッキング着用の影響について検討を加えた。

方法 実験Ⅰでは、6種のストッキングを対象として、20代女子4名について、裸体時および着衣時の、巻尺による周径6項目の測定、モアレトポグラフィによる体表面形状変化の観察、リニア電子走査型超音波断層装置(Bモード)による6部位の皮下脂肪厚測定を行なった。衣服圧はKirkらの式により予測し、皮膚表在血流量はキャノン・レーザー・ドップラー血流計を用い、気温 29 ± 0.5 ℃、湿度 $50 \pm 5\%$ の人工気候室にて、着用30分後に測定した。実験Ⅱでは、2種のストッキングを対象として、28～48才の女子7名について、閉塞型趾先プレチスモグラフィを用い、 30 ± 0.5 ℃、 $50 \pm 5\%$ の人工気候室にて、着衣直後、40分後、脱衣直後の足の末梢動脈血流量を観察、測定した。

結果 1. ストッキングの整容効果は、腹腰部、大腿部にわずかにみられ、特に大腿部では皮脂が前面、内面から後面にかけて移動し、大腿断面が円形に近づく傾向がみられた。2. ストッキングによる下腿および足首の衣服圧が強い場合、足背部の表在血流量の低下が観察された。3. 足の末梢血流量は、ストッキングの衣服圧が大きい場合抑制される傾向がみられた。
(本研究の一部は文部省科学研究補助費によった。)